「男女共同参画の視点に立った地域の課題解決」のためのプログラムデザイン

【事業名】　誰もが安心して暮らせる為に　若者と考える心とからだ

【趣旨】女性だけでなく男性も、だれもが暴力の被害者にならないために、身近な暴力について正しい知識、具体的な対応を伝える。

課題

多くの若者たちは、様々な暴力の被害を受けやすい　経験不足で見過ごされがち

目的

自分で自分を守るために、正しい知識・スキルを伝えておく　暴力とは・・・性犯罪、痴漢、性虐待、DV,デートDV等　身を守る一番の防犯は「離れる」いうことの他にもスキルも伝える

対象

中学生・高校生・大学生等と、周りのおとな（支援者）

連携先

中学校・高校養護教諭等/若者の居場所/
CAPスペシャリスト/デートDV指導者等

目標	基点・基軸の形成			課題解決		振り返り
	男女共同参画推進意識の形成	現状把握	課題把握・課題共有	課題解決の方策の検討	課題解決のための行動	
内容	「参加型ワークショップの実施」 ・希望クラスごと（45分から50分程度） 女子だけでなく、男子も性暴力に被害を受けることがあること。	参加型ワークショップの中で・・ 経験不足で見過ごされがちである身近な暴力について 「正しい知識を伝える」 「身を守るためのスキル」 恋愛と暴力を勘違いしている 加害者から離れての生活が難しい 暴力は水が流れるがごとく、力の強いものから弱いもの、さらに弱いものへと,振るわれ、被害にあいやすい	参加型ワークショップの中で・・ 「子どもだけでなく、支援する大人たちに大人も現状理解が必要」 教師、保護者、支援する大人たちも暴力について学ぶ。 交際相手からのスマホチェック、行動制限はデートDVと言う、暴力であること等➡再認識 男子が性暴力の被害者になることを知らされていないことが多い。	・お互いの人権について知る。 ・知識・対処方法を具体的に知る。 ・「NO」「GO」できなくてもあなたは悪くはない。 ・必ず相談してほしいことを伝える。 ・聴く力をつける（支援する大人）	参加者自身が気付く 人権侵害されたときに身を守ることを実践。 相談先を知らせておく。（機関・人等） ・相談できる大人（支援者）を増やす	アンケート　学んだことを実践したのか？したのなら具体的に記載（6か月・12か月後くらい）
方法	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークシート（復習シート等）	ワークシート（相談先等案内）	アンケートフォーム